

地域おこし協力隊を支える団体

地域唯一のスーパーの撤退により不安が広がったことから、地域に必要なものは何かを考え、不安を安心に変えようという立ち上げたのが、「ほほえみの郷トイトイ」です。スーパーとしての役割はもちろろん、地域の人たちの交流の場にもなっていて、ここに来たくても来られない人には移動販売車を使って商品と安心をお届けしています。

トイトイでは、阿東で生活を希望する方が収入を得ながら活躍できるように、仕



NPO法人ほほえみの郷トイトイ
たかだしんいろう
事務局長 **高田 新一郎** さん

事や関係人口を生み出し、地域が応援していく体制の構築を進めてきました。2022年からは、市からの要請もあり、阿東に着任する地域おこし協力隊の受け入れやサポートを開始。見ず知らずの地へ都会からやってくる若者たちを支えていけるのか、当初は正直不安もありましたが、ともに日々を過ごす中で、地域の人たちの優しさや感謝の言葉に触れ、いきいきと輝いていく隊員たちの姿を見てきました。彼らが自分の個性や得意なことを活かせるように、なるべく口出しはせず、主体性に任せようようにしています。人生をかけて地域おこし協力隊になり阿東に来てくれた人材を、大切に育てていきたいと考えています。

こうして阿東に移住してくれる若者がいる一方で気になっているのは、地域で育つ子どもたちです。阿東に残り出られるのはもちろん嬉しいですが、外に出てしっかりと学んだりいろいろな経験してほしいと



トイトイで活躍している3人の隊員たち

【取材協力】
NPO法人ほほえみの郷トイトイ

理事長 長安正己さん
住所 山口市阿東地福1886-1
TEL 083-952-1800
URL https://jitoku-toitoy.com/

「山口には何も無い」そう思われている人もいるかもしれませんが、でも、私たち市民の「当たり前」の日常が、移住者の方たちから見たら特別なものだったりするんです。景色が美しく、人があたたかくて、それは最高で贅沢な日常なのかもしれません。あなたの「当たり前」の中にも、きっと山口の良さがたくさんあります。ぜひ、山口の良さを再発見してみてくださいね。

ぐちえん! まえんありがとう



徳佐りんごを100%使用してりんご本来の風味を活かしたシードル



2024年9月5日開業の山手山上新に新店舗をオープン

やまぐちシードル

協力隊卒業後、2019年9月にやまぐちシードルを創業し、自社の商品販売を開始。現在、店舗では商品の販売のみですが、今後はカフェスペースやシードルに合う食事とのコラボ企画なども計画。また、地域に隠れているまだ知られていない美味しいものを見つけて紹介し、将来はここを繋がりや交流の場とするべく育てていきたいそう。

阿東とはちょっと離れたこの場所で、これからもやまぐちシードルを通じて、阿東や山口の情報発信や魅力を伝えていってほしいなと思います。(蘭光)

[URL] https://www.instagram.com/yamaguchi_cidle/

はらだなおみ 原田尚美さん

出身地 > 山口市小郡
着任地 > 山口市全域
期間 > 2016年6月～2019年5月



シードルを通じて繋がる輪づくり

大学を出てそのまま関西でOLをしていましたが、仕事に対して何か満たされない気持ちを抱えていたんです。自分にしかできない仕事や天職と思える仕事があったら、何度か転職もした。もともとワインが好きなので、休日はぶどう農家の支援ボランティアに参加したり、ワイナリー巡りをしたりして過ごしていました。そんな中、ワインを通じて話が生まれ、人と人が繋がり、ワインはコミュニケーションツールとしても素敵だなと感じるようになったんです。そして、自分もお酒に携わりたい、農と食と人を繋ぐ仕事をしてみたいと思うようになりました。そんな時、地元山口で地域おこし協力隊の募集があることを知ったんです。「地域の特性を踏まえたビジネスモデルの構築」というミッションに、これは私のやりたいことができるかもしれないと思い、32歳の時に山口に帰る決心をしました。

当初私は、山口市内にワイナリーをつくりたいと考えていて、ぶどうを植える場所を探して市内を視察している時に、阿東のりんご農家さんと出会いました。そのご縁から、徳佐りんごを使ったスパークリングワイン=シードルにたどり着き、山口らしさを大切にしてお酒づくりに挑戦することにしたんです。

地域おこし協力隊では、事務仕事からイベント企画、シードルの啓蒙活動などさまざまなことに取り組み、たくさんの方にお世話になりました。大変なことも多かったですが、阿東を訪れるとみなさんが快く迎え入れてくれて、話を聞いてくれる。そういうあたたかさのおかげで助けてきたと思います。

そして私は、シードルの製造販売を通して、人と人が繋がる輪づくりがしたいんだと気づきました。美味しいりんごを作ってくれる農家さんがいて、美味しいワインを作ってくれる醸造家さんがいて、美味しいものを求める人がいる。それを繋ぐのが自分の役割なんだと思っています。これまでいろいろな経験をしたらこそ、今やりがいいを持って、自分の本当にしたい仕事ができていると思います。

山口の支え人 地域おこし協力隊編

このたび、山口市に地域おこし協力隊としてやってきました。よろしくお願ひします

頑張ります

地域おこし協力隊として、山口市で頑張ってきた人たちが、どんなことをしているんだろう? 地域おこし協力隊って何だろう?

地域おこし協力隊とは、その地域を盛り上げようとする、その街や市からやってきた人たちのことだよ!

なるほど...

地域おこし協力隊として、山口市で頑張ってきた人たちが、どんなことをしているんだろう?

地域おこし協力隊って何だろう?



徳地和紙ワークス

ワークショップを中心に、公共施設での季節飾りやオリジナル工芸品の展示、徳地のイベントでの折染めを施したタペストリーの装飾など、幅広く地域に貢献されています。フラダンスのレイを作り、リノベーションに取り入れたいなど、寄せられるリクエストにはできる限り応えているそう。

一人ひとりの思いを大切に、新しい発想を柔軟に受け入れる船瀬さん。徳地和紙の持ち味を活かした彼女の作品からはあたたかさや温もりが伝わってきます。任期終了後も地域との繋がりを築き、今できることを、できるカタチで、自分らしく伝統継承をする姿に魅了されています。(吉田)

[URL] https://www.instagram.com/tokuji_washi/

ふなせはるか 船瀬春香さん

出身地 > 東京都
着任地 > 山口市徳地
期間 > 2015年6月～2018年5月



自分らしい生き方を教えてくれた徳地和紙

東京で20年間事務職をしていましたが、どこか達成感が得られずに過ごしていました。以前からデザインやものづくりに興味があり、友人から地域おこし協力隊制度を教わり「山口市徳地手書き和紙の技術継承」というミッションに惹かれて応募。40歳で初めて、ものづくりと移住に挑戦することになったんです。

お師匠さんである「千々松和紙工房」の方から、技術を教わる日々。材料となる原木栽培に始まり、いくつもの工程を手作業で丁寧に行うなど、骨が折れる仕事に驚きと失敗の連続でした。でもそのおかげで、多くを学ぶことができ、ものづくりの苦労を知ったことで、日常の一つひとつが大事に思えるようになりました。イベントやワークショップでは、材料を最後まで使い切るという日本人の知恵、徳地和紙の魅力、800年以上守られてきた伝統についてPRさせてもらっています。

自分の好きなことを仕事にできるのが、いかに贅沢で幸せなことかをこちらに移住して気づきました。また、東京では隣人が誰かさえ分らないくらいでしたが、山口では知り合いがどんどん繋がっている。都会にはない、山口ならではの魅力だと感じます。徳地の冬は都会や山口市中心部とは比べものにならないくらい極寒で、気が滅入ることもありました。だからこそ、春を迎えると山の命が芽吹いてくる力強さや美しさを体感できるんです。「山が笑う」を全身で感じる事ができ、自身の気力も支えられ、春の訪れと共に前に動き出しています。こんな自然豊かな徳地だからこそ、世界に誇れる和紙が生み出される。その魅力を、次世代や世界に伝えていきたいです。

辛いことより楽しい時間が多いと感じられ、身体も心も元気にしてくれた山口市徳地、憧れをカタチに変えてくれた地域おこし協力隊制度、サポートしてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



ジビエカレーを通じて野生動物との共存を考える機会を提供



野生ならではの傷をデザインとして活かしたシカ革ポーチとコインケース

キツク プロジェクト Kizuku Project

自分の気づきから何かを生み出し、それが誰かのためになれば自身の幸せにも繋がる。そんな素敵な思いで現在も活動中。レザー製品やジビエの取り組みの他にも、イベントの企画運営(「パンと珈琲のフェスティバル」「山口移住者交流会」など多数)、移住相談など、地域と外部人材を結び活動されています。気づきから生み出されるアイデアで、これからはますます地域が発展し、活気づいていくことが楽しみです。(泉重)

[URL] https://www.instagram.com/kizuku_project/

なかおかゆうすけ 中岡佑輔さん

出身地 > 兵庫県
着任地 > 山口市南部地域
期間 > 2019年3月～2022年2月



レザーを介して気づいた野生動物との共存

神戸にいたときに大病を患い、闘病生活をした経験から、自分の生き方を深く考えるようになりました。レザー製品の製造販売に携わっていたので、レザーの仕事で独立しようと思い移住先を探していたときに、昔住んだことがある山口で地域おこし協力隊の募集を見つけたんです。課された任務は「南部地域ニューツーリズム形成業務」で、僕の武器であるレザーを使って、地域の方とコミュニケーションを取りながら、交流人口の拡大を目指せなかと考えました。また、レザーを扱う中で、農作物を荒らし「害獣」と呼ばれるシカやイノシシの革にも興味を持つようになり、農家の害獣被害の現実と、捕獲後の動物のほとんどが廃棄されていることに気づかされました。そこで、山口で捕獲されたシカの皮を革製品として生まれ変わらせ、それを地域の魅力の一つとしてPRしようと考えたんです。

レザーを使ったワークショップを始める前には、参加者のみなさんに必ず害獣対策の資料を見てもらい、野生動物との共存について考えてもらって気づきづくりを行ってきました。そして、人を集めることが難しくなったコロナ発生以降は、キッチンカーを準備して、山口県産のシカ肉を使った「ジビエカレー」を地域の人たちに食べてもらいイベントを開催。ジビエの美味しさや栄養価の高さ、そして野生動物の大切な命を食べることも共存の一つだと気づいてもらい、地域活性に繋がればという思いで活動しました。

環境を変えることはすごく勇気がいることですが、自分自身の行動こそが「気づきを生む」という気持ちで過ごしています。現在は秋穂二島に住んでいますが、自然豊かで子どもたちがとつものびのびできる環境で、僕もすごく癒されています。ここでも地域との繋がりを守りながら、いろんな人たちの出会いの場所にもなる活動拠点をつくりたいと思っています。